

航空機事故を想定し百里で総合訓練 城西病院 DMAT が出動

自衛隊百里基地（茨城空港）で9月26日、旅客機事故を想定した訓練が行われ、城西病院のDMAT（災害派遣医療チーム）が参加しました。

この訓練は、国土交通省百里空港事務所や航空自衛隊、茨城県警、消防、DMATなどが参加する大規模訓練で、ドクターヘリが飛来し、消防車両などが実際に放水、傷病者を搬送するなど本格的な訓練は5年ぶりといいます。

午後1時、乗員、乗客合わせて106人の旅客機が着陸後に第1エンジンから出火、炎上したという想定で、実施され、消防車両の放水で9分後に鎮火。旅客機に見立てたバスから傷病者を次々と搬出していくという手順で行われました。城西病院DMATは7人が参加。事故発生で出動要請を受け、病院から現地に駆け付けたという想定で訓練に入りました。チームは現地到着すると、すぐに指揮所本部に到着を報告し、救護所に配置されました。医師1人看護師1人は防災ヘリでの患者搬送業務に就きました。事務調整員1人は救護所と消防指揮所で、傷病者搬送のための情報収集に当たりました。看護師3人と事務調整員1人は赤タグ（重傷で医療機関に緊急搬送の必要がある傷病者）を収容している第1収容所に配置され、傷病者の再トリアージに当たり、実際の事故さながらの緊迫した雰囲気の中で行われました。

城西病院DMATは、今後も緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練やDMAT北関東ブロック訓練に参加し、経験と技術を積み上げていきます。

平成30年9月27日

